

国立大学イノベーション創出環境強化事業 令和2年度採択校
採択から3年目のアワード（追加交付金）に関する所見

国立大学法人 東海国立大学機構

岐阜大学

（審査・評価委員の所見）

- スタートアップ創設・成長支援の充実、地域創生プロジェクトの推進による民間投資の呼び込みをはじめ、地道な活動による成果が上がりつつあることは大いに評価できる。一方、例えばスタートアップ創設や地域創生プロジェクトに集中し強化する等、メリハリの利いた取組みも必要ではないかと考える。
- R3年度までの外部収入は着実に伸びており、個々の項目での課題はあるものの、おおむね達成と評価。R5年に向けての外部収入計画も堅実であり、達成できる見込みはある。名古屋大学との連携、若手研究者ポストや共同研究促進事業等も進めており、効果が期待できる一方で、貴学独自で進める取組には AI チャットポットや地域ブランド共同研究講座等まだ発展途上のものも多く、今後の進展に期待したい。

国立大学イノベーション創出環境強化事業 令和2年度採択校
採択から3年目のアワード（追加交付金）に関する所見

国立大学法人 岡山大学

（審査・評価委員の所見）

- 大学病院が持つ新たな価値としての診療外事業による収益確保強化は、他大学に先駆けての野心的な取組みであり成果も上がっている。医療情報というきわめて秘匿性の高いものを取り扱うため多くの課題があるが、類似の国プロや他大学との連携により、積極的に進めてほしい。大いに期待する。一方で、課題であった医工連携やスタートアップ育成は発展途上。既存の取組との連動や、新たなアイデアにより、これらの事業の早期の進展に期待する。
- IMac が成功裏に進んでいることは承知。このシステムが医学系で大きな成果を挙げる一方で、工学系にまで波及するプロセスを具体的に検討されたい。
- 令和3年度における民間資金の獲得状況について着実に成果が上がっている。また、この事業における取組みをもとに他の事業へも挑戦し、更なる資金獲得を計画する等の好循環が生まれており、今後の展開も期待がもてる。

国立大学イノベーション創出環境強化事業 令和2年度採択校
採択から3年目のアワード（追加交付金）に関する所見

国立大学法人 東京農工大学

（審査・評価委員の所見）

- 学長のリーダーシップが卓越している。学長が貴学のもつ様々なリソース（人的資産、動物病院、遊休資産、農工連携など）を俯瞰的に把握し、これらをもとにした先駆的な取組みとトップセールスで成果をあげている。大学の研究力の社会への活用には、貴学の方針通り大学自身による投資的な資金投入が不可欠である。今後の更なる進展に大いに期待する。
- 今後は経営リソースの拡大が最大のテーマになるだろう。自ら大きなジャンプを望んでいるとすれば、そこへの異次元の展開が求められると思われる。
- 大型産学連携に対し、OPERAやTAMAGOといった多様な取り組みで実績を増やそうとしている。受託分析事業等でもスコープデポジットを導入する等多様な収入獲得を目指している。
- 動物救急医療センターの改修等により、国立大学としては先進的な、人件費、設備償却をコスト参入して黒字化、診療収入の増加を計画しているが、同時に獣医学、工学の双方のリソースを持つ稀少な大学として、獣医工連携による共同研究等の深化についても期待したい。
- 林業プロジェクトに25人の教職員を投入する大型プロジェクトは貴学ならではの取組で期待できる。

国立大学イノベーション創出環境強化事業 令和2年度採択校
採択から3年目のフォローアップに関する所見

国立大学法人 九州工業大学

※九州工業大学は、採択から3年目のアワード（追加交付金）の申請を行わなかった。

（審査・評価委員の所見）

- 本交付金を活用しての産学共創拠点 GYMLABO の整備、北九州市ロボット・DX 推進センターとの連携による AI ニーズシーズマッチング支援システムの導入等、産学連携強化に向けての体制整備が着実に進んでいる。
- また、地域の人材育成ニーズに応えるセミナーの充実やニーズシーズシステムの拡大など地域の核になる活動については評価できる。
- 一方で民間資金獲得実績は計画に比べて大幅未達。また R4 年計画においても共同研究費を前年度比倍増近くで計画、かなり背伸びした計画である。ロボット、宇宙、半導体等の分野での国プロ等の拡大をさらに図ってほしい。